

東京メトロ電車内広告:Tokyo Sports Station を見て感じたこと

梅田 富雄(化工会)

先日、都営地下鉄浅草線の社内で Tokyo Sports Station アーチェリー編を見つけて眺めていました。

次の3コマアニメで、簡単な説明文にイメージ図が掲載されているものです。

- 1コマ目 70メートル先の「目玉焼き」を射る
- 2コマ目 矢に当たる雨粒の量で、角度を変える
- 3コマ目 1分間で、3人が矢を放つ

この3ステップはアーチェリーの進め方を示していますが、スポーツとして勝つことを目標に掲げて競技を行うものと思われます。そのために戦術として3コマのような内容が示されていると考え、一般のマネジメントと通じるものが基本になっていると感じました。つまり、目標に掲げ。それを達成するために状況判断によって、とるべき方策が設定され、これを実行することになると思います。

交通新聞 電子版

検索キー

記事分類

業種分類

詳細検索

ログイン

運営

JR東日本・東京メトロ「TOKYO SPORTS STATION」 第8弾

2019.07.16 JR東日本 予定・計画・施策

2020年東京五輪・パラリンピック大会
オフィシャルパートナーのJR東日本と東京
地下鉄(東京メトロ)は、各競技の見ど
ころや観戦ポイントなどを紹介する共同プ
ロジェクト「TOKYO SPORTS STATI
ON」の第8弾を展開している。



システム論に従えば、1 目標を設定し達成すること(課題設定)、2 達成手段として成功するための方策を複数案準備する(システム合成と解析) 3 複数案を実施する(意思決定と最適化、行動)ということになります。制御システムを思い浮かべれば、フィードバックループで目標値を設定、状況変化が標準に合致していると思われれば所定の制御則に従って行動、状況が標準的ではないと思われれば標準とのズレを見つけて修正する、というパターンを想定することができます。制御システムの上位概念に学習機能を備えれば、これによってズレの修正を行い指示することになります。センサーとして雨滴の数がわかり、通常の設定値ではうまくいかないとすれば設定値である矢を放つ角度を変えて対処することになります。

日常生活においても、何か、課題を解決する場合に、成果をイメージして、うまく出来そうな案を考え、行動していると思います。多くの課題に直面し解決してきた経験を積むことにより毎回細かいステップを思い描かなくても、やや習慣的に課題解決を行っていると思われれます。スポーツでも一緒ではないか、と感じた次第です。

社内でスマホを観る人が圧倒的に多い中、偶には顔を上げて車内を眺めるのもよいのではと思った次第です。前頁の記事は google で「Tokyo Sports Station アーチェリー」を検索して得たものですが、他のケースもありますので、ご覧になってはいかがでしょうか。(サンプルとして図の感じだけで、文章が読めませんが、ご了解ください)